

鳳凰山だより

第1号 令和6年4月

196名の入学を許可します

令和6年度入学生は、氏名点呼で一人ずつ、「はい」と元気よく返事をしていました。

今年度赴任した深井裕之校長は式辞で「将来的にさまざまな分野で次世代のリーダーとして、全国や世界で大いに活躍してくれる日が来ることを期待する」と新入生に呼びかけました。

新入生を代表し、佐藤晶人さんが宣誓を行い、「学業や部活動に全力で取り組むこと、未来の私たちが悔いのないような高校生活を送ること」を誓いました。

4月8日 入学式



先輩と一緒に最初の行事

新入生は、緊張しつつも期待に目を輝かせながら入場し、伝統的な対面式が行われました。

校長からは「3年間で実りあるものとなるよう大いに期待する」とお言葉をいただきました。

生徒会長からは「お～っす」の洗礼と、「困ったことは2・3年生を頼って」のメッセージ、応援団長からは「いろいろなところから集まった縁を大切にこれからの高校生活を過ごしていきますよ」との声かけがありました。

4月9日 対面式



セレモニーが終わった後、はじめて全校生徒がそろった機会を利用して、校長から「深掘りすることの大切さ」についてのお話がありました。

始めに2～3人のグループを作り、①好きな色 ②好きな理由 ③なぜそう思うようになったのかを質問し合い、④聞いた内容を他の人に紹介するという活動を全校生徒と職員で体験しました。

その説明として、同じ色でも視点が違えば感じ方も違うと確認し、「学問だけでなく、社会や人との関わりにも応用してほしい。深掘りするほど面白くなることを鳳鳴生は気が付ける。価値観の変容が日々起こる生き方をしてほしい。」と結びました。

伝統継承の覚悟が感じられました 4月17日~21日 応援歌練習

応援歌練習の始めに、「長い間受け継がれてきた校歌と応援歌である。覚悟を持って覚えてほしい。」と応援団長から思いが伝えられました。

その後、「声が小さい」「もう一度最初から」などの檄が飛ぶ一方、最後には「よく頑張りました」とのねぎらいの言葉もあり、1年生は応援歌練習をとおして、高校生活の厳しさと、優しさの両方を体感することができました。

最終日は体育館で2・3年生と共に声を合わせ、「勝利の翼」の斉唱で締めくくりました。



真剣に先輩の説明に耳を傾けていました 4月15日 理数科集会



3年理数科が司会進行を務め、2年理数科に対する理数科の活動を説明する集会が開かれました。

校長、理数科主任あいさつに続き、各班の班員が分担しながら、大学研究室訪問、課題研究の中間発表、代表決定発表、体験入学での発表等の、理数科特有の行事の説明がありました。

グループ別協議では、部活動との両立や勉強方法など、気になる話題を取り上げて、活発な意見交換が行われました。

厳粛な雰囲気で行われた生徒総会 4月24日

生徒会長あいさつに続き議長団が選出され、令和6年度生徒総会が開会しました。

議事についての審議では、2・3年生から活発な意見や質問が出され、行事でのスマホを利用した撮影について、など、具体的な質問もありました。

各委員会の委員長は一つ一つの質問に丁寧に応答し、最終的には議事が出された5つの議案が全て承認され、厳粛な雰囲気の中、生徒総会が幕を閉じました。

